

国

語

(解答番号)

1

}

37

()

国 語

試験時間60分

〔注 意〕

1. この問題冊子は指示があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号が正しく記入・マークされていない場合は0点となる。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にマークすること。例えば、問題文中に

10

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の〈例〉のように
解答番号10の解答記入欄の③にマークすること。正しくマークされていない場合は採点できないことがある。

(例)

解答 番号	解答記入欄 (マーク)									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

4. 問題冊子の各ページの余白は自由に使用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 試験終了後、解答用紙は通路側に置くこと。なお、問題冊子は持ち帰ること。

〈マーク式についての注意〉

1. 機械が読み取って採点するので、折り曲げたり汚したりしないこと。
2. マークはHBの鉛筆で枠の中を濃く塗りつぶすこと。
3. 1つのマーク欄には1つしかマークしないこと。
4. 訂正はプラスチック消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除くこと。
5. 所定欄以外には何も書かないこと。

問題一 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

かつて、画一的な道徳規範を若い世代に押しつけようとする社会の圧力が強力だった頃は、その枠組のなかへ生徒たちを囲い込もうとする学校文化の圧力もまた相当なものでした。したがって、その抑圧に抵抗しようとして若い世代が独自に築いていた青年文化や少年文化もまた強力なものでした。教師の圧力に抵抗するために、非行文化のような対抗文化が形成され、その文化を共有することで、互いの強いつながり意識が保たれていたのです。

学校文化のなかで望ましい自己像を得ることが難しい少年たちは、その価値観を反転させた独自の文化に同調することで、自らの肯定感を保持しようとしていました。だから、たとえば学校の教師に気に入られるような行動をとれば仲間からは蔑まれ、教師に反抗的な態度をとれば仲間からは称賛されたのです。学校文化に反する行為こそが、彼らの仲間内では イ でした。

したがって当時は、学校文化の下においても、あるいは非行文化の下においても、周囲の仲間から肯定的な評価を受ける者と、否定的な評価を受ける者との違いが明白だったといえます。学校文化に対して反動形成されたものが非行文化ですから、a 両者のあいだでは物差しが反転していたにすぎません。いずれの文化の下でも、人物評価の基準それ自体は明瞭なものであったのです。

ところが、一九八〇年代のなかばあたりから、日本社会を支えてきた価値観は急速に多元化し始めます。それと平行して、人びとの欲望も大幅に多様化してきます。いわゆる消費資本主義社会の到来です。そのため、産業界が学校に期待する人材も、画一的な大量生産を前提とした工場労働を担うような均質な人間ではなくなり、多種多様な欲望にもとづいた商品ニーズに応えるような創造的な感性をもった人間へと移っていきました。政府の教育政策も、産業界からのこのような要請を受けて、大きな方針転換を迫られます。画一的な 1 ハイガイが指摘され始めた従来の教育に代わり、新たな教育理念として「個性の重視」が登場してきました。当時、中曽根内閣の下で臨時教育審議会が出した答申は、その方針転換を象徴するものでした。

た。

今日の子どもたちは、多様性を否定する画一的な檻のなかへ囲い込まれていた時代とは異なって、むしろ多様性を 2 ショウレイするようになった新しい学校文化のなかを生きています。学校の教師にも抑圧性を感じなくなり、仲間で団結して立ち向かう敵とはみなさなくなっています。そのため、学校文化に 3 反旗を翻すことで成立してきた非行文化は、その基盤を徐々に失いつつあります。

しかし、いくら多様性が賞揚されるといっても、あらゆる個性のあり方が学校で受容されるわけではありません。そもそも周囲の期待にそうものでなければ、その個性が肯定的な評価を受けることはありません。とりわけ学校は、他人との密接な関係をなせば強制された空間です。そのため、今日の子どもたちは、かつてのように画一的な評価の物差しを押しつけられなくなった代わりに、今度は、身近にいる個別の人間から逐一に評価を受けざるをえなくなっているのです。

多様な個性のあり方が賞揚される現代では、普遍的で画一的な物差しによってではなく、個々の場面で具体的な承認を周囲から受けることによって、自己の評価が定まることになります。

ロ、そこでウケを狙えるか否かが、自己評価にあたって重要な判断材料となるのです。しかも、客観的な評価の物差しがそこに存在するわけではありませんから、相手がどのような反応を示すかは前もって予想しづらく、評価された結果を待つて初めて判断されることとなります。すなわち、4 自己承認を得られるか否かは、その時になつてみなければ分からないのです。

かつて、社会の側に安定した価値の物差しがあった時代には、時々の場の空気や気分などによって、個々の評価が大きく揺らぐことはありませんでした。だから、周囲の人びとによる一時的な評価を過剰に気にかけたり、それに 5 ホシロウされることも少なかつたといえます。場合によっては、「我が道を進む」と 6 孤高にふるまうことすらできました。社会の物差しを自らの内面に取り込み、それを自分の物差しとすることで、自己肯定感の安定した基盤を確保できたからです。また、そういつた支配文化に違和感を覚えていた少年たちも、対抗文化の物差しを自らの内面に取り込み、それを自分の物差しとすることで、自己肯定感の安定した基盤を確保することができました。いずれにせよ、自分が属する文化の正当性に裏づけられたジャイロ

スコープ（回転儀）が自分の内部で作動していたので、それを支えに一人で立っていることも容易だったのです。

しかし、人びとの価値観が多元化し、多様な生き方が認められるようになった今日の社会では、高感度の対人レーダーをつねに作動させて、場の空気を敏感に読み取り、自分に対する周囲の反応を探っていかなければ、自己肯定のための根拠を確認しづらくなっています。いわば「内在化された『抽象的な他者』」という普遍的な物差しが作用しなくなっているために、その代替として、身近にいる「具体的な他者」からの評価に依存するようになっているのです。

今日の若い世代が、ケータイの「圏外」表示に強い不安を感じ、友だち関係から疎外されることを過度に恐怖するのは、このような理由によるところが大きいと思われます。身近な人間から受ける個別の評価が圧倒的な力を持ち、そのために人間関係の拘束力がかつてよりも大幅に強まっているのです。KYという言葉は、まさにその生きづらさを象徴しているように思われます。

誤解のないように述べておきますが、かつてのように規範の拘束力が強かった時代のほうが、子どもたちは幸せだったと述べているわけではありません。その時代は、画一的な物差しを強引に押しつけてくる社会の抑圧力が非常に強く、当時の子どもたちは、その抑圧力のなかで鬱積した生きづらさを抱えていたはずです。特定の枠組を強制されるうつとしさから解放され、多様な生き方が認められるようになったという点では、現代のほうがはるかに生きやすい時代でしょう。

今日の問題は、多様性の賞揚に由来する新たな困難が、身近な人間関係の拘束力の強まりというかたちで表われている点にあります。ですから、過去と比較して、生きづらさが増大しているか否かを問うことには意味がありません。むしろ、「その生きづらさの性質が、社会の拘束力の強さにもつくものから、人間関係の拘束力の強さにもつくものへと、時代とともに変化している点に目を向けるべきなのです。」

価値観が多元化し、人びとの関心対象が千差万別になった世界で、相手の反応を敏感に読みとってつねに良好な関係を保ち、相手からの評価を得やすいように自分の個性を効果的に呈示し続けるのは非常に困難なことです。しかし、それは同時に、自己肯定感を保っていく上で必須の営みでもあります。そして、その営みをこなすために必要となるのは、なんといっても他者

と円滑なコミュニケーションを営む能力でしょう。

スクール・カーストでの生徒たちの序列づけも、勉強やスポーツが得意か否かによってではなく、友だちと一緒にいる場を盛り上げ、その関係をうまく転がしているようなコミュニケーション能力の高低によって決まっています。いまの教室は、その能力が専制力をもった空間なのです。その意味で、コミュニケーション能力こそが自己肯定感の基盤になっているともいえます。

コミュニケーションの対象とされるべき共通目標があれば、その技法が多少は下手であっても、目前の切実な必要に迫られてなんとか意志疎通を図ろうとしますから、コミュニケーション能力の有無は二次の関心事となります。しかし現在、人びとの関心対象が千差万別になったことで、コミュニケーションされるべき切実な話題は少なくなっているにもかかわらず、自己肯定感の基盤であるコミュニケーションの場はつねに確保され続けなければなりません。その結果、コミュニケーションの形式やその能力だけが極端にクローズアップされることとなります。

しかし、よく考えてみれば、コミュニケーション能力ほど、その評価が他者の反応に依存するものではありません。コミュニケーションとは、その原理的な性質からして、けっして自分の内部で完結するものではなく、つねに ハ だからです。コミュニケーション能力は、相手との関係しだいでも高くも低くもなりうるものです。

（土井隆義「キャラ化する／される子どもたち——排除型社会における新たな人間像」による。一部改変）

問一 傍線部(1)～(3)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

- | | |
|--|---|
| <p>(1) 1</p> <p>① シヘイで支払う
② ゴヘイのある表現
③ 社会のヘイソク感
④ ヘイシン低頭して謝る</p> | <p>(2) 2</p> <p>① 疑われるのはシンガイだ
② 既成ガイネンにとられない発想
③ ハクガイされた歴史
④ 不当な扱いにフンガイする</p> |
|--|---|

- | | |
|--|---|
| <p>(2) 3</p> <p>① シヨウケイの念を抱く
② シヨウダクする
③ 部長にシヨウカクする
④ シヨウガク金をもらう</p> | <p>(3) 4</p> <p>① レイサイ企業
② 美辞レイクを並べる
③ レイセツをわきまえる
④ 監督の叱咤ゲキレイ</p> |
|--|---|

- | | |
|---|---|
| <p>(3) 5</p> <p>① ホンヤク本を読む
② ムホンを起こす
③ 自由ホンボウな人
④ 役立ったならホンモウだ</p> | <p>(4) 6</p> <p>① ロウニンとなった武士
② シンロウが絶えない
③ 急な出来事にロウバイした人
④ 人をグロウする言い方</p> |
|---|---|

問二 空所イに入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

- ① 注視の対象 ② 賞賛の的 ③ 敬遠の対象 ④ 望ましい自己像 ⑤ 反面教師的な存在

問三 波線部(a)の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

- ① 学校文化においても非行文化においても、周囲の人間から肯定的な評価を受ける者と否定的な評価を受ける者とは、評価されるとき基準が正反対であるのは誰の目にも明白であったということ。
- ② 学校文化においても非行文化においても、周囲からの評価は普遍的な物差しではなく結局は身近な他者による判断に依存し、教師・仲間のどちらから肯定的に評価されるかが異なるだけだということ。
- ③ 学校文化の中で望ましい評価を得るための評価基準と、非行文化の中で仲間から称賛されるための評価基準は共に教師への反発によって形成される連帯感から生まれるということ。
- ④ 学校文化においても非行文化においても、根底には画一的な道德規範を押し付ける強い抑圧への抵抗が存在し、その中で評価を求める対象が教師ではなく仲間だけになったということ。
- ⑤ 学校文化においても非行文化においても、社会の側にある画一的な判断基準が軸となっており、それに従うか逆らうかという違いがあるだけで、いずれも安定した基準があったということ。

問四 二重傍線部 (i)、(ii) の語句の意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

9

10

(i)

9

- ① 裏切られたと感じて攻撃する
- ② 強く自己主張する
- ③ 諦念を抱きそつばを向く
- ④ 逆らって歯向かう
- ⑤ 関心を持たず関与しない

(ii)

10

- ① 場の空気を敏感に読み取りながら自分の要求を通す
- ② 他者に迎合せず自分の信念に基づいた行動をする
- ③ 自分さえよければよいという態度で他者を見下す
- ④ ひとりぼっちであることを悲観する
- ⑤ 他者の評価を正確に理解できずにとりつくろう

問五

空所口に入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

11

- ① 逆にいえば
- ② 抽象化すると
- ③ 結論からいうと
- ④ 平たくいえば
- ⑤ 要約すれば

問六

波線部 (b) の理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

12

- ① 画一的な基準に基づく評価は、周囲の一時的な評価に敏感にならないと適切に判断ができないから。
- ② 身近にいる個別の人間から与えられる評価は、人によって基準がそれぞれ異なり、客観的な指標をもたないから。
- ③ 具体的な場面において、肯定的な評価を周囲から受けられるか否かの基準は、時代によって方針転換する道徳規範を反映するから。
- ④ 社会の側にある安定した基準に基づく評価は、客観的な物差しをもたず、時々の場の空気や周囲の人の気分依存するから。
- ⑤ 周囲から与えられる評価は、周囲の期待にそうものでなければならず、あらゆる個性のあり方が認められているわけではないから。

問七 波線部(c)で筆者が言う、A「抽象的な他者」とB「具体的な他者」の説明として最も適切な組合せを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

13

- ① A 周囲の評価を気にかけず、「我が道を進む」人
B 多様な個性のあり方が賞揚される時代に基準となる人
- ② A 社会の画一的な基準を自分の内面に取り込んで生まれる基準
B 生徒にとつての学校の友達など、周囲にいる身近な人
- ③ A どのような反応を示すか、前もって予想することができない他人
B 自分が属する文化の正当性に裏づけられたジャイロスコプを支えに立っている人
- ④ A 社会の圧力に対抗するために連帯する仲間
B 自己の評価を規定する周囲にいる人
- ⑤ A 時々の場の空気や気分によって変わるもの
B 教師の抑圧に対して団結して共に立ち向かう仲間

問八

波線部(d)の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

14

- ① 多様性が許容されない画一的な檻の中へ囲い込まれる生きづらさから、創造的な感性を持つことを要請される生きづらさになったということ。
- ② 社会の側から画一的な物差しで評価される生きづらさから、身近な個々の人間によって評価されるために、つねに場の空気を敏感に読み取って行動しなければならない生きづらさに変わったということ。
- ③ 多様な個性のあり方を社会から求められる生きづらさから、明確な人物評価の基準に基づき、評価される生きづらさに変わったということ。
- ④ コミュニケーション能力によってスクール・カーストの序列が決まる生きづらさから、身近にいる個別の人間から逐一に評価を受けざるをえない生きづらさに変わったということ。
- ⑤ 厳しい道徳規範に基づいてその枠組みの中に押し込まれる生きづらさから、対抗文化を形成し、仲間との連帯によってしか自己肯定感を得られない生きづらさに変わったということ。

問九

空所ハに入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

15

- ① 目前の必要に迫られて行う行為
- ② 自己肯定感の基盤
- ③ 他者との関係の総体
- ④ 高い共感性を要する営み
- ⑤ 外部からもたらされるもの

問十

本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

16

- ① 産業界が学校に期待する人材が個性豊かな多様な人材になったことで、勉強やスポーツの能力が社会で求められなくなってきたことにより、今の社会においてはコミュニケーション能力だけが共通して求められる能力になった。
- ② かつての社会においては、社会の圧力が強力だったため、学校文化の中で許容されない子どもたちは自らの肯定感を放棄し、非行に走るしかなかったが、今は多様性を賞揚する社会になったため、むしろ学校の枠組みにおさまらない生徒が評価されるようになった。
- ③ 価値観の多様化によって、子どもたちの自己肯定感を保証するものは、社会全体の統一的な価値基準や道徳規範への同調や対抗から、周囲の人による個別具体的な評価という流動的なものへと変わり、評価を得るためのコミュニケーション能力が重視されるようになった。
- ④ 今日の子どもたちは、創造的な感性をもつことや、多様であることを強要されるようになり、自己を表現するコミュニケーション能力だけが極端にクローズアップされるようになったため、かつてに比べて生きづらくなっている。
- ⑤ かつての社会では模範的な生徒とそうではない非行少年との区別が明確であり、その基準も安定的で具体的なものであったのに対して、今の社会では子どもたちは個性・創造性といった抽象的な基準によって評価されるようになった。

問題二

次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

「読むこと」は、人間の基本的活動をなしており、デリダやド・マンに特有の主題というわけではない。私たちは日々、書物や雑誌、新聞、チラシ、街中に掲げられた看板や案内板、ウェブ上の記事や、電子メールやSNSのやりとり、相手の気持ちや場の空気といったるまで、ありとあらゆるものを読んで、いる。読むということほど、

I。

私たちは当たり前のように日々読んでいる一方、読まれるものは巷にあふれかえっている。資本主義社会は、たえず人々の注意を引くためにさまざまな広告、もしくは広告付きコンテンツを読ませることで成り立っている（マブジシエン・ユコフ「マブジシエン・ユコフ」）。

紙面よりも画面の文字を読むことができます。多くなつた現代では、インターネットの記事に広告が差し挟まれることは当然になつており、私たちは、購買行動に誘導するさまざまな情報を、そうと意識するよりも以前に読まされている。

現代では、読むものは本や雑誌などの活字に限らず、それとは別の、断片的で散発的な情報を読ませるメディア環境がますます拡大し増幅している。大勢の人々が電車のなかでスマートフォンを覗き込んで静かにしている姿は、現代社会をイ

する光景だろう。現代人の本離れが叫ばれて久しいが、識字能力の低下で読書が敬遠されるようになったというより、たんに紙の活字以外に読むものがあまりに多くなつた結果、わざわざ本を手にとることが減っているのである。

人生は有限である。限られた時間のなかで、何を読み読まないのか、どのように読むのか——読むということが、現代ほど鋭く問われている時代もない。人生の少なからぬ時間を占め、何を読んで日々を過ごすのかは、各々の人生を大きく左右するだろう。ならば、いったい何を読むべきなのか。

ひとつの無視できない□として古典というものがある。人類の長い歴史を経てくり返し読まれ、時代や地域を超えて一定の□ハを獲得した一群の書物。言うなれば、人類の叡智がそこに結晶しているものであり、少数の書物だけで何百何千冊ものエッセンスがそこに詰まっていると見えよう。読むといつても、次々に読み捨てられるジャンク本ではなく、

A

耕

B

読、少数の古典的書物をくり返し読み、思索と想像力を深めることが推奨されてきた。

古典は文字通り古い時代から受け継がれてきた書物であり、長い時間をかけて蓄積されてきただけに評価の揺るがないものが多い。しかし問題は、概して古典的な書物が現代人にとって気やすく手に取れるものではないという点だ。時代であれ地域であれ、言語であれ常識であれ、それらが現代と異なれば異なるほど、当の書物と共有している前提は少なくなる。読み手自身の知識や経験で「ホカンしなければ、それらの書物は接近しやすいものにはなってくれない」。

現代の私たちは、古典からますます隔てられている。先に述べた現代のメディア環境のもとでは、古典によくあるように、長編の小説や歴史書であったり、論理の込み入った哲学書であったり、意味を理解するのに時間のかかる文章はいっそう遠ざけられてしまう。一見してなんの目的に役立つのかよくわからない難解な書物を、ただ「古典だから」という理由だけで読み続けられる人はそう多くはないだろう。そうであるのは、私たちに読む能力がないからという以上に、事実上、そうした書物にじっくり取り組むことを許さないような環境に私たちが置かれているからなのである。

現代における「読むことの不可能性」は、古典を筆頭として本当に読むべきとされているものが読めない環境ができてしまっているという点で、事実上の制限に起因するところが大きいと考えることができる。

(宮崎裕助「読むことのエチカ ジャック・デリダとポール・ド・マン」による。一部改変)

問一 傍線部(1)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

(1)

17

① 財産をホユウする

② ホチヨウを合わせる

③ 野生動物をホカクする

④ ホジョセンを引く

ホ | カン |

18

① 状況をガイカンする

② 目標をカンスイする

③ 健康をカンリする

④ カンゼイを撤廃する

問二 空所Iに入る記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

19

- ① 私たちの人生を浪費させている活動もないだろう
- ② 私たちの日常生活に不可欠な活動もないだろう
- ③ 私たちに知的刺激を与えてくれる活動もないだろう
- ④ 私たちを迷わせ、混乱させている活動もないだろう
- ⑤ 私たちの経済活動の指針となっている活動もないだろう

問三 空所イハに入る語の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

20

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|
| ① | イ | 代表 | 口 | 情報 | ハ | 理解 |
| ② | イ | 説明 | 口 | 象徴 | ハ | 賞賛 |
| ③ | イ | 象徴 | 口 | 規範 | ハ | 評価 |
| ④ | イ | 描写 | 口 | 事例 | ハ | 情報 |
| ⑤ | イ | 理解 | 口 | 代表 | ハ | 注目 |

問四 波線部（a）の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

21

- ① 人類が獲得してきた深遠な道理を悟りうる才知
- ② 人類が経験を通して身につけてきた生活の知恵
- ③ 人類が集積してきた膨大な量の知識
- ④ 人類が生まれつき備えている直感的知性
- ⑤ 人類が挑んできた難度の高い書物に対する読解力

問五 空所A・Bに入れると四字熟語が成立する漢字として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

22

23

A 22

- ① 牛
- ② 農
- ③ 乾
- ④ 水
- ⑤ 晴

B 23

- ① 未
- ② 雨
- ③ 味
- ④ 霧
- ⑤ 既

問六 波線部（b）の本文中における意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

24

- ① 紙の活字以外に読むものがあふれる現代の環境において、むしろ読むべきものの入手が困難になったこと。
- ② 現代においては古典を読むことが意味をなさなくなり、本来の読書とは言えなくなったこと。
- ③ 読むものがあふれている現代では、古典を読みたくても時間が確保できなくなったこと。
- ④ 現代は、古典的な書物を読んだり、理解したりするために必要な前提が失われた環境にあること。
- ⑤ 読み手の知識や経験が不足し、読むべき書物を読む能力が失われたのが現代という時代であること。

問七

本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

25

- ① 古典は、古い時代から高い評価を受けてきた書物だが、読むべきものがあふれている現代の環境においても価値があるかどうかが議論になっている。
- ② 現代人が古典を気やすく手に取れなくなったのは、古典と共有している前提がなくなったためだから、その前提を改めて学ぶ必要があるになっている。
- ③ 古典が遠ざけられ理解されなくなった原因は、現代人が古典とじっくり取り組む前提を得ることができない環境になったことである。
- ④ 活字離れが言われて久しいが、現代のメディア環境においては、読むことが本や雑誌などの活字に限られず、読書の前提がより広い視野で考えられるようになった。
- ⑤ 有限な人生において何を読むかは大切なことであり、人類の叡智の結晶である古典と前提を共有できる環境を取り戻すことが求められている。

問題三

次の各問に答えなさい。

問一

文意が一通りに限定されるものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

26

- ① 祖母が大好物のケーキをデパートで買ってきた。
- ② 近畿地方では本日午後十一時頃から獅子座流星群を観察することができる。
- ③ 私は先週母と姉が通っているヨガ教室に行ってみた。
- ④ 父が録画しておいた映画を誤って消してしまった。
- ⑤ テレビにもよく出ている有名な洋食屋のシェフがあのレストランの常連客であるとは意外だ。

問二

(1)～(3)の文の「」に入る語句として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

27

29

- (1) 我々は発展を遂げた現代の便利な生活にすっかり慣れてしまい、「」先人の苦勞を忘れがちだ。 27
 - ① しからずんば
 - ② しとどに
 - ③ いみじくも
 - ④ さだめし
 - ⑤ ややもすると
- (2) 今度の大会、「」では彼が優勝候補の筆頭だそうだよ。 28
 - ① 善後策
 - ② 下馬評
 - ③ 鉄面皮
 - ④ 形而上
 - ⑤ 不退転
- (3) 新人の彼は上司に対し、「」ことを申すようですが、別の方法を探すべきだと思います」と意見した。 29
 - ① 寄る辺ない
 - ② 申し分ない
 - ③ 口幅ったい
 - ④ 名状しがたい
 - ⑤ 面目ない

問三

故事成語やことわざ、慣用表現を用いた(1)～(5)の文の空所に入る語句として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

30 34

(1) 彼の成し遂げたことは偉業に違いないが、で、故にここまでの歩みを知る者の気持ちは複雑だ。 30

① 孟母三遷 ② 大器晚成 ③ 先ず隗より始めよ ④ 一将功成りて万骨枯る ⑤ 屋上屋を架す

(2) ミスをしてしまったことより、それを隠そうとしたことが上司のに触れたようだ。 31

① 劇鱗 ② 逆隣 ③ 撃隣 ④ 激隣 ⑤ 逆隣

(3) いつまでもそんなやり方では、「木に縁りてを求む」で、なかなかうまくいかないよ。 32

① 牛 ② 鳥 ③ 魚 ④ 実 ⑤ 花

(4) その大臣は、就任早々つまらない失言をして、をつけてしまった。 33

① 見切り ② 手 ③ 先鞭 ④ 渡り ⑤ 味噌

(5) 彼は普段は気難しいが、孫の話となるとを崩す。 34

① 臆面 ② 角 ③ 相好 ④ 身 ⑤ 足

問四

(1)～(3)の傍線部(a)～(c)について、表記または言葉の使い方の正誤の説明として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

35 37

(1) 今年のファン感謝祭は悪天候で来客数が昨年を^a下回るかと危ぶまれたが、開始早々^b大盛況で、皆の心配は^c杞悠に終わった。 35

① (a) だけが誤り ② (b) だけが誤り ③ (c) だけが誤り
④ (a) と (b) が誤り ⑤ (a) と (c) が誤り ⑥ (b) と (c) が誤り
⑦ (a) と (b) と (c) が誤り ⑧ 誤りはない

(2) 自動車免許の^a更進には、運転の^b適正を改めて^c検査することが重要だ。 36

① (a) だけが誤り ② (b) だけが誤り ③ (c) だけが誤り
④ (a) と (b) が誤り ⑤ (a) と (c) が誤り ⑥ (b) と (c) が誤り
⑦ (a) と (b) と (c) が誤り ⑧ 誤りはない

(3) ^a専領軍の指揮官は、ヘリコプターから^b降りるとすぐに物資の^c徴発を命じた。 37

① (a) だけが誤り ② (b) だけが誤り ③ (c) だけが誤り
④ (a) と (b) が誤り ⑤ (a) と (c) が誤り ⑥ (b) と (c) が誤り
⑦ (a) と (b) と (c) が誤り ⑧ 誤りはない